

国語教育相談室

中学校

特集

新しい時代に
向けた、深い学び

巻頭エッセイ

動物の「言葉」を
ヒトに伝える

松原 始

書写

「カリキュラム・
マネジメント」の
視点から

ブックガイド

語り継ぐ人

——体験していないことを、
体験した人として語るということ——



90

書写教育を
活性化する
ために

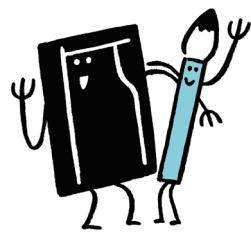


高知市立城東中学校

校長

大谷俊彦

「カリキュラム・マネジメント」の視点から



1960年、高知県生まれ。県学校教育課指導主事、文部科学省主幹などを経て現職。著書に『学校経営マナダラート』で創る新しいカリキュラム・マネジメント』（ぎょうせい）など。



カリキュラム・マネジメントとは？



「カリキュラム・マネジメント」について、この分野で先行研究してきた大阪教育大学の田村知子教授は、「各学校が、学校の教育目標をよりよく達成するために、組織としてカリキュラムを創り、動かし、変えていく、継続的かつ発展的な課題解決の営み」と定義している（※）。

今回「カリキュラム・マネジメントの視点から書写教育を考える」という内容で執筆することになったのだが、果たして「カリキュラム・マネジメント」という言葉の意味をどれだけの教職員が正確に理解しているだろうか？

教職員対象の研修会に呼ばれ、「カリキュラム・マネジメントに取り組んだことがある人は

か。こうした学校の実態を踏まえ、カリキュラム・マネジメントの視点から新しい書写教育の在り方について提案していきたい。

「カリキュラム・マネジメント」はいつから始まったのか？



「カリキュラム・マネジメント」という用語については、一九九八年頃から研究が始まったと言われており、一九九八年の学習指導要領で創設された「総合的な学習の時間」と深く関連している。「総合的な学習の時間」という「時間枠」が新たに設けられ、この時間を使って、各学校は創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開しなければならなかったのだが、「総合的な学習の時間」に教科書はない。目標やテーマ、学習内容や進め方、評価等に至るまで、各学校が考えることになっている。つまりこのときから、今までの学校にはなかった「時間枠」の中身を組み立てるといって「コーディネート力」や「マネジメント力」が求められるようになったのである。これ以降、中央教育審議会答申（二〇〇三・二〇〇八）や総合的な学習の時間の

手を挙げてください」という質問をすると、決

まったように、管理職か指導主事しか手が挙がらない。たぶん、「マネジメント」という言葉から、管理する側が行うものだというイメージがあるのだろう。次に「カリキュラム・マネジメントって何ですか？」と尋ねると、「教育課程を編成すること」とか「教科横断的な学びを推進すること」といったフアジーな返答しか返ってこないのが学校の実態なのだ。

国語科において「書写の授業」が確実に実施されているだろうか？



今回の学習指導要領の改訂では、書写の時間は現行と変わっていない。小学校では、硬筆を

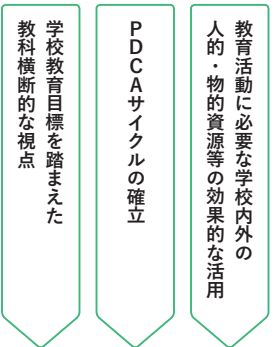
解説（二〇〇八）などで「カリキュラム・マネジメント」という言葉がたびたび使われるようになってきた。

「カリキュラム・マネジメント」の定義



二〇一五年八月、中央教育審議会の論点整理において、「教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を子供の心の発達に並び、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画であり、その編成主体は各学校である。各学校には、学習指導要領等を受け止めつつ、子供たちの姿や地域の実情等を踏まえて、各学校が設定する教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき

カリキュラム・マネジメント



三つの側面

中央教育審議会 答申

使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は、第三学年以上で行い、年間三十時間程度行うこととなっている。中学校も現行と変更なく、第一・二学年が二十時間程度、第三学年が十時間程度と示されている。

二〇〇六年十二月には、「国語科の必修領域なのに書写を実施していない中学校が多い」との指摘を受け、文部科学省の教科履修状況調査が全国的に実施されたのだが、公立中学校の25%、四校に一校は毛筆を使った書写の授業は三学期にまとめて行っているという報告であった。

調査以来十三年たった今、はたして国語の総授業数内において、「書写」の時間が、適切に確保され、年間を通じて確実に実施されているだろうか。書写の年間指導計画が、十三年たった今も「絵にかいた餅」になっていないだろうか。

どのような教育課程を編成し、どのようにそれを実施・評価し改善していくのかという「カリキュラム・マネジメント」の確立が求められる。と学校教育におけるカリキュラム・マネジメントの重要性が謳われた。

こうした流れを受け、二〇一七年三月に公示された新しい学習指導要領において「各学校においては、児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。」とカリキュラム・マネジメントの定義が新たに示された（傍線部筆者）。

次回以降では、「学校におけるカリキュラム・マネジメントの必要性」や「カリキュラム・マネジメントの視点を生かした書写の年間指導計画」、「主体的・対話的で深い学びにつながる書写授業」などについて提案していく。

※「実践・カリキュラムマネジメント」(田村知子 著・ぎょうせい・2011年) イラスト 長場 雄